

分析サンプル（土壌、堆肥、有機資材）の採取方法

（SOFIX 分析、MQI 分析、OQI 分析）

1. SOFIX 分析サンプル（土壌）の採取方法

(1) 土壌採取のタイミング

できるだけ天気の良い日に土壌を採取する。具体的には、暑く乾燥した時期や雨の間は避け、通常の湿度を保持した土壌を採取する。

(2) 土壌採取方法

① 表面土壌の乾燥した部分を取り除き（約 5 cm）、土壌サンプラーやスコップ等で深さ約 5～15 cm の土壌を採取する（作土層）。

② 同一条件の 1 圃場で、少なくとも 5 か所の土壌を採取する。面積が広い場合は、より多くの箇所から土壌を採取する（図 1）。土壌の採取時は、圃場の端を除いた部分からまんべんなく取るようにする。

※同一条件の圃場において、30 アール（3 反）程度で 5 か所を採取する。

※同一条件とは、作物、肥料、農薬、灌漑などの管理が同じであり、植物の生長と収量、害虫や病気の発生率などが同じである圃場をいう。

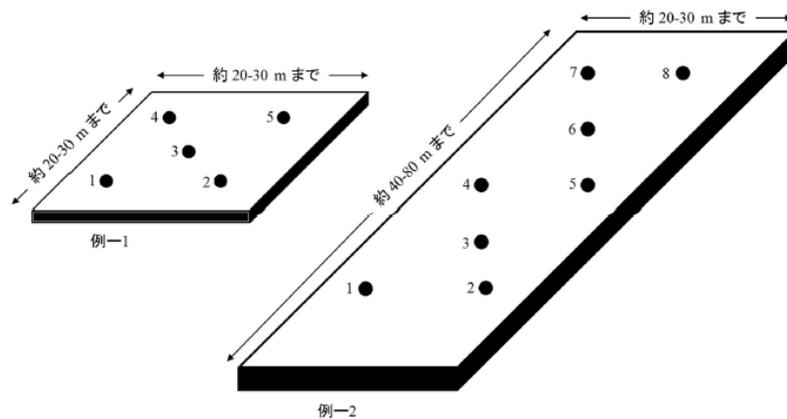


図 1 土壌の採取地点と採取数

③ 5 地点以上から、できるだけ同じ重量で土壌を採取し（表 1）、乾燥させないで、それぞれの土壌をチャック付き袋（ジップロック等）に入れる。それぞれの袋に番号を記載（A-1、A-2、A-3、A-4、A-5 等）し、1 つの大きなチャック付き袋もしくは SOFIX 指定の「サンプル採取キット」（有料）にまとめて入れ、各土壌を混合しないで送付する（各土

壤の混合は分析機関で行い、混合土壌サンプルを1検体として分析する)。

表1 混合時の各採取地点の土壌重量

	土壌重量				
	採取地点1	採取地点2	採取地点3	採取地点4	採取地点5
正しい方法	約100 g				
誤った方法	約200 g	約100 g	約150 g	約100 g	約50 g

2. MQI・OQI分析サンプル(堆肥、有機資材)の採取方法

(1) 採取方法

- ① 表面と底面の部分を避けて、3~5箇所から採取し、チャック付き袋(ジップロック)もしくはSOFIX指定の「サンプル採取キット」(有料)に入れる(一つの袋に入れる)。
- ② サンプルの量は、100 g以上とし、少し空気を入れた状態で封をする。

※サンプル発送方法については、別紙の「分析サンプル(土壌、堆肥、有機資材)の発送方法」をご参照ください。

SOFIX 事務局